

校訓	真善美	令和7年度 学校だより	発行日	令和8年3月25日
教育目標	自ら考え、協働し、共に未来を 創造する生徒の育成 認め合う心、確かな学力、健やかな心を育てる	「荒中だより」 3月 弥生 第25号	発行者	伊丹市立荒牧中学校 校長 二宮 啓二

## 《令和8年度 修了式式辞》

今日お渡しした「修了証」をもって、みなさんは各学年の教育課程を修了し、「進級」が決定しました。まもなく、2年生は学校を引っ張る「最高学年」に、1年生は学校の中心となる「中堅学年」になります。特に、最高学年となる3年生にとって、次の



1年は義務教育を終える大きな節目の年です。自分の将来を見据え、進路について真剣に考え、選択していく重要な1年になります。それぞれの目標に向かって頑張ってください。

さて、卒業生の進学先について簡単に報告します。伊丹市内には、全日制公立高校が4校あります。県伊丹高校、県伊丹西高校、市伊丹高校、県伊丹北高校です。そこには約30%の生徒が進学します。また、伊丹市外の公立高校へも約30%が進学し、市内外を合わせると公立高校への進学は、全体の約60%になります。一方、私立高校へは約21%、定時制・多部制・通信制高等学校には、公立・私立合わせて、約18%が進学します。現在は、進路の選択肢や学び方がさまざまな時代です。だからこそ、「何を学びたいのか」「どんな自分になりたいのか」を考え、自分に合った進路を選ぶことが大切です。ぜひこれからの学校生活の中で、自分の得意なことや、興味があることを見つけ、進路選択の指針としてください。

また、3月12日に公立高校の学力検査が行われました。今年の入試問題では、国語・数学・英語ではおよそ65%、理科・社会では約50%～60%が、2年生までの学習内容で構成されていました。つまり、公立高等学校入試のおよそ半分以上は、2年生までの学びが土台になっています。3年生で学ぶ内容も出題されていますが、特に2年生までに学んできた知識を使って複合的に考える問題も多くなっています。入試では、「知っているか」だけでなく、「学んだことを使って考える力」が問われているのです。こうしたことから、2年生までの学習はとても重要です。しかし、本校では2年生になると、家庭学習時間が減る傾向が見られます。これは望ましいことではありません。

1年生の皆さん。中学校生活に慣れ、部活動や毎日の忙しさを理由に、勉強が後回しになってはいませんか。2年生になると学習内容は確実に難しくなります。今以上に、学習に向き合う姿勢が必要です。

2年生の皆さんは、これまでの学習内容を振り返り、基礎を固めることがとても大切です。努力を積み重ねていけば、「行きたい学校」の選択肢は必ず広がります。今からの取組が、きっと将来につながります。

中学校の3年間は、心も体も大きく成長する時期です。さまざまな経験を通して視野が広がり、自分のことを落ち着いて考えられるようになります。考え方も、少しずつ「こども」から「大人」へと変わっていきます。ときには反発を感じたり、迷ったりすることもあります。それも大切な成長の一部です。



学年の終わりにあたる今は、これまでの自分をいったんリセットし、前向きな気持ちで仕切り直す良い機会です。この一年間を振り返り、自分がどんな成長をしてきたのかを考えてみてください。そして、次の一年で何を伸ばしたいのか、自分なりの目標を描いてほしいと思います。そうした姿勢が、人を成長させます。

成長は、すぐに目に見えるとは限りません。努力を続けても、成果を感じにくい時期もあります。しかし、ある時ふっと、自分の成長に気づく瞬間が訪れます。進級を控えた今は、その成果が表れやすい大切な時期です。次の学年に向けて、準備を丁寧に、着実に進めてください。

最後に、春休みの過ごし方についてです。事故やけがのないよう、安全に気をつけて生活してください。私は毎年4月になると、生徒の皆さんの表情が引き締まっていくのを感じます。それは、「最上級生になる」「先輩になる」という意識が芽生えるからだと思います。4月8日、新しい学年を迎え、成長した皆さんに再び会えることを、心から楽しみにしています。

#### 《保護者の皆様》

1年間、本校の教育活動に対し、温かいご理解とご協力を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。今年度のお子様の成長や頑張りについて、ご家庭におかれても、是非、お話いただき、次の学年へのステップへとつなげていただけると幸いです。来年度もどうぞよろしく願いいたします。

